

2 なかまと人権について考えよう

学び
11

ちがいのちがい

グループ討議 40～60分

【学習のねらい】

- ・グループの中で他者の意見をしっかりと聞き、自分の考えを言えるようにする。
- ・生活の中で何気なく見過ごしている様々な人権問題に対して見直していくきっかけにする。

【準備するもの】

- ・カード「あっていいちがい？ あってはならないちがい？」
- ・ワークシート「ちがいのちがい」（黒板に表を書いてもよい）

【進め方】

- (1) グループ分け（4～6人位）をし、カード「あっていいちがい？ あってはならないちがい？」をグループに1組ずつ配ったら、進行役が、カードをトランプのようになり、裏返しにして机の中央に置く。
- (2) グループ内で、1番目の人が1枚目のカードをめくり、読み上げる。その後、「あっていいちがい」なのか、「あってはならないちがい」なのか、理由も考えながら、全員で話し合う。判断が難しいカードは、「どちらとも言えないちがい」とし、3つに分ける。
- (3) 1枚目のカードの結論が出たら、2番目の人が2枚目のカードをめくり、繰り返していく。
- (4) 討議が終わったグループは、ワークシートに整理する。それぞれに共通する特徴（何を基準に選び出したか）を話し合い、発表し合う。

【留意点】

- (1) 分けた基準について、次のようなことも参考にするとよい。
 - * 「あっていいちがい」の共通点は、身体的特徴・嗜好・個性・習慣・文化・思想・信条や生存権保障等の違い。
 - * 「あってはならないちがい」の共通点は、人種・民族・性別・生まれ・貧富の差等による不平等、環境保全対策等の違い。
- (2) さらに学習を深めるために、何を切り口（基準）にしているか、どの切り口を優先させるか、人権の確立という観点から考えあいたい。
- (3) ファシリテーター、あるいは参加者が、実態に合ったカードを作ることすばらしい。

〈ワークシート例〉

ちがい	番号	共通する特徴
あっていいちがい		
あってはならないちがい		
どちらとも言えないちがい		

※参考図書：「新しい開発教育のすすめ方」古今書院

1

先生は髪を染めてもよいが、生徒はいけない。

2

身体の大きさは同じだが、課長のイスの方が社員のイスより大きい。

3

ジョン君は肌の色が黒いが、トム君は白い。

4

スウェーデンでは在住外国人に地方参政権が保障されているが、日本では保障されていない。

5

Sホテルには車椅子用のスロープがあるが、Mホテルにはない。

6

Mさんはニンジンが嫌いだが、Kさんは何でも食べる。

7

イスラム教徒は豚肉を食べず、ヒンズー教徒は牛肉を食べない。

8

マラソン大会で男子は5km走り、女子は3km走る。

9

Dさんは中学卒業後働いているが、Yさんは高校へ進学した。

10

日本には死刑制度があるが、フランスにはない。

11

大学卒業のAさんは、同年齢で同じ仕事をしている高校卒業のBさんより給与が高い。

12

私の祖母は読み書きができるが、同和地区出身のSおばあさんはできない。

13

Aさんの家では父親が必ず先にお風呂に入るが、Bさんの家では決まっていない。

14

店には、女性のお客さんに限った「サービスの日」があるが、男性客用にはほとんどない。

15

妻を亡くした70歳のTさんは先日再婚したが、夫を亡くした65歳のSさんは再婚も考えず一人で暮らしている。

16

Eさんのお宅の葬式の時「清めの塩」がついてきたが、Iさんのお宅の葬式には「清めの塩」がついてこなかった。

17

世界にはワクチンを接種できずに死んでいく子どもと、ワクチンを接種でき死をまぬがれる子どもがいる。

18

A町では同和問題を学習しているが、B町ではしていない。

19

S社では障害者の方にできることはしてもらうが、F社では失敗のないよう障害者の仕事内容が決められている。

20

日本でアパートを借りる時、日本人のQさんは簡単に借りられるが、外国人のZさんはなかなか借りることができない。

21

22

23

24